

報 告 書 抄 録

ふりがな	こうちくりたに いち・さん いせき							
書名	高地栗谷Ⅰ・Ⅲ遺跡							
副書名	今治新都市開発整備事業に伴う埋蔵文化財報告書							
巻次	第1集							
シリーズ名	今治市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第92集							
編集者名	櫛部 大作							
編集機関	今治市教育委員会							
所在地	〒794-8511 愛媛県今治市別宮町一丁目4番地1 tel.0898-32-5200(代)							
発行年月日	西暦 2008年11月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コ ー ド		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
こうちくりたにいちいせき 高地栗谷Ⅰ遺跡	いまぼりしこうち 今治市高地 いちちようめおつ 1丁目乙314番地	382027		34°	134°	20021009	約790	新都市開発に伴う調査
				03'	00')		
				55"	58"	20030122		
こうちくりたにさんいせき 高地栗谷Ⅲ遺跡	いまぼりしこうち 今治市高地 いちちようめおつ 1丁目乙 355番地1・2	382027		34°	134°	20011219	約1,200	新都市開発に伴う調査
				04'	00')		
				03"	59"	20020319		
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
高地栗谷Ⅰ遺跡	集落跡	弥生時代	竪穴住居 掘立柱建物 段状遺構 柱穴	弥生土器 石器				
高地栗谷Ⅲ遺跡	生産遺跡	古墳時代 古代	鍛冶炉 掘立柱建物 柱穴 土坑 溝	須恵器 土師器 鉄製品 鉄滓				
要 約								
高地栗谷Ⅰ遺跡	高地栗谷Ⅰ遺跡はいわゆる丘陵裾部・丘陵中腹・丘陵山頂付近に分布する丘陵性集落の流れを含む遺跡であると考えられる。主要な遺構は竪穴住居1棟、段状遺構2基、柱穴90基に渡る。出土遺物は弥生中期後半の壺・甕が多く、簡易的な生活集落としての様相が強い。また、住居内や性格不明遺構などからサヌカイトの剥片が多く検出されている点から考慮しても石器製作工房としての一面も見られる。							
高地栗谷Ⅲ遺跡	古墳時代後期の前方後円墳である高地栗谷1号墳に隣接し、同時期の総柱建物も確認されている。同古墳造営の際の施設あるいは墓を見守る特別な施設であった可能性がある。また遺跡自体が急な斜面を削り、遺構面を形成しており、古墳後期の遺構面、古代の遺構面2面と複数の時代に跨って利用されている。特に古代(8世紀～9世紀)の面において、鍛冶炉1基と上屋の可能性のある掘立柱建物も確認された。検出された遺構・遺物から見て集落というよりも鍛冶遺構に発端する生産遺跡で、古代の工房的な性格の強い遺跡である。							